

平成 27 年度  
事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日  
至 平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人日本ボート協会

## 平成 27 年度事業報告（概要）

当年度においても、本会の二大方針である「国際競技力の向上」、「ボート人口増大」を引き続き、着実に実現する為、定款に定める各事業を実施した。特に、以下の事業に重点的に取り組んだ。

「日本の地域社会でボート競技の普及を図る」活動においては、平成 24 年度よりスタートした、ボート競技普及プロジェクトについて、全国ボート場所在市町村協議会との連携を強め、物的、人的環境の整備を働きかけ、普及活動を強化した。また、第 28 回全国マシンローイング大会を開催し、前年の 4,387 名を超える過去最高となる 4,647 名（前年比 106%）の参加を得て、全国的に世代を超えたボート普及活動の柱として展開した。

併せて、「お台場レガッタ 2015」を、650 名の参加により開催した。また、日本パラローイング協会、全国高校体育連盟ボート専門部並びに全国中学校ボート連盟等への支援活動を行い、ボート人口の増大、新たなボート競技に接する機会の創出、将来的には総合的な競技力の向上にも繋がる活動を目指した普及活動を展開した。

「ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」においては、2020 年東京オリンピックにおける日本ボート界悲願のメダル獲得に向けた、最も重要な事業と位置付け、新たに外国人スタッフを加え、強化マネジメント体制ならびにコーチ体制を更に強化し、ジュニアからシニアの一貫した国際競技力の向上のための計画を立案し実行した。具体的には、フィジカル・フィットネスの強化を含め、世界に伍していくため質量両面における国内強化合宿の継続並びに増強を目的に、総計 19 回の国内強化合宿を行った。また、平成 25 年度より、日本スポーツ振興センターの助成を受け、ボートに適したタレントを有する選手の発掘活動を継続し、今年度は全国 50 カ所、2,735 名の参加を得て、トライアウト活動を実施した。さらに、発掘したアスリートに対し、計 28 回の育成合宿並びに 3 回の海外育成プログラムを実施した。

「ボートの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」においては、計画していた本会主催の 12 大会のうち、11 大会について開催した。なお、7 月に予定していた「第 35 回全日本中学選手権競漕大会」については、天候不順により中止とした。改めて、開催地域のご協力とご支援並びに関係各位のご尽力に感謝したい。

「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」においては、ワールドカップ第 2 戦同じく第 3 戦、ユニバーシアード、アジアジュニア、U23 世界選手権、世界ジュニア、世界選手権の 7 大会へ派遣した。

その結果、ユニバーシアードでは金メダル 2 個（LW2X・LM4-）銅メダル 1 個（LM2X）、U23 世界選手権で銀メダル 1 個（BLW1X）を獲得した。

「ボート競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定」においては、一昨年 2 月の FISA 臨時総会で決定した FISA ルールの改定に伴って、本会「競漕規則」の見直しを継続して実施した。また、ボートコースの新規・更新認定業務を都道府県協会、コース管理自治体等と協力して、本年度は 10 コースについて認定業務を行った。

また 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、東京都が計画している「（仮称）海の森水上競技場」の建設に関しては、競技運営上並びにオリンピック後の利用等の課題について、関係先との協議を継続して実施した。

「ボート競技の研究・指導・審判員及び指導者の育成、ボートに関する広報事業」においては、調査・研究の分野では、医科学上の見地から選手の体力・潜力に関する研究を前年に引き続き行った。

審判員の育成に関する事業は、審判員の大会派遣、研修と養成の定期的な実施に加えて、FISA、ARF主催の国際大会へ国際審判員を6名派遣して国際的な場での活動を通じて、ボート競技の振興に貢献をした。

また、指導者のレベル向上を図る為、指導者養成講習会の開催を中心として、インストラクター、セーフティアドバイザー養成事業を、昨年を引き続き着実に実施した。特に、各種の指導者養成は、競技者人口の増大・強化に密接に関わることであり、養成講習会の開催回数の増加、開催場所の広域化を通じて参加者の増大を図った。

ボートに関する広報事業については、「ローイング」の定期発行、ホームページのグレードアップ、コンテンツの充実に努めるとともに、メディアへの対応も積極的に行った。

メディカルサポートについては、協会主催大会の医事業務、ドクターとトレーナーの連携による選手のコンディショニングの管理、スポーツ栄養に関する啓発活動を行った。また、体力測定はJISSと連携しながら定期的に測定を行い、ジュニア世代からシニアまでのデータの蓄積を行った。

アンチ・ドーピング検査は、今年度も toto 助成事業として、国内大会6日間、51検体について実施した。

「その他この法人の目的を達成するために必要な事業」においては、ガバナンスの強化のため、裁定委員会制度、内部通報制度、コンプライアンス規定の啓蒙並びに運用について、更に強化した。

また、日本ボート界の悲願であるオリンピックでのメダル獲得のための資金確保策として、強化募金活動を継続して行った。

以上

## 平成 27 年度実施事業

本会は、ボート競技を振興して、日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することにより、わが国の文化の向上に寄与することを目的として、下記の事業を行った。

### 1. 日本の地域社会でボート競技の普及に関する事業

本年度は、以下の事業を実施して、ボート競技の普及に取り組んだ。

#### (1) ボート競技普及プロジェクトの継続的推進

「ボート競技普及プロジェクト」の推進を通じ、「全国ボート場所在市町村協議会」加盟の各水域をはじめ、全国主要水域のボート普及環境の整備をはじめとした活動を行った。

#### (2) 全国マシンローイング大会の開催

第 28 回全国大会を平成 27 年 10 月～平成 28 年 1 月の間、全国 9 ブロックに加え、全国 19 拠点で開催し、過去最高となる 4,647 名（前年比 106%）の参加を得た。

#### (3) 「お台場レガッタ 2015」の開催

ボート人口増大、魅力向上プロジェクトの一環として、一般愛好者、初心者参加を募り、参加者、観客が共に楽しみ、ボート競技の魅力を感じることができる「ボートイベント」を 6 月 21 日（日）、東京都内のお台場海浜公園で開催し、650 名の参加を得た。本事業は、日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金事業の「スポーツ活動推進事業」として実施した。

#### (4) 関連団体の活動支援

中学生、高校生及び障がい者のボート競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟、全国高等学校体育連盟ボート専門部及び NPO 法人日本パラローイング協会の競漕大会開催と普及活動に対し、助成金交付と支援を行った。

### 2. ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上に関する事業

#### (1) 選手強化事業

本年度は、以下の選手強化事業を実施した。

事業名	開催日程	開催場所
5 月ナショナルチーム強化合宿	5/7（木）～5/28（木）	戸田ボートコース
6 月ナショナルチーム強化合宿	6/1（月）～6/11（木）	戸田ボートコース
6 月ジュニア日本代表第一次合宿	6/23（火）～6/29（月）	戸田ボートコース
7 月ジュニア日本代表第二次合宿	7/8（水）～7/15（水）	戸田ボートコース
7 月ジュニア日本代表第三次合宿	7/21（火）～7/29（水）	戸田ボートコース
7・8 月ナショナルチーム強化合宿	7/27（月）～8/18（火）	戸田ボートコース
10 月リオ五輪日本代表第一次選考合宿	10/21（水）～10/30（金）	戸田ボートコース
10・11 月継続強化選手強化合宿	10/31（土）～11/3（火）	久々子湖ボートコース
11 月リオ五輪日本代表第二次選考合宿	11/4（水）～11/13（金）	戸田ボートコース
11 月リオ五輪日本代表第三次選考合宿	11/2（月）～11/27（金）	戸田ボートコース
12 月リオ五輪日本代表第四次選考合宿	12/7（月）～12/18（金）	戸田ボートコース

12月U19強化合宿	12/7(月)～12/18(金)	戸田ボートコース
1月リオ五輪日本代表候補強化選考合宿	1/12(火)～1/29(金)	戸田ボートコース
1月U23日本代表候補強化合宿	1/13(水)～1/22(金)	戸田ボートコース
1月継続強化選手強化合宿	1/13(水)～1/22(金)	戸田ボートコース
1月U19有望選手強化育成合宿	1/16(土)～1/22(金)	戸田ボートコース
2月U19有望選手強化育成合宿	2/11(木)～2/19(金)	戸田ボートコース
2月U23日本代表候補強化合宿	2/12(金)～2/19(金)	戸田ボートコース
2月継続強化選手強化合宿	2/12(金)～2/19(金)	戸田ボートコース
2月リオ五輪日本代表候補強化合宿	2/8(月)～2/26(金)	戸田ボートコース
3月リオ五輪日本代表候補強化合宿	3/7(月)～3/25(金)	戸田ボートコース
3月U23日本代表強化合宿	3/8(火)～3/18(金)	戸田ボートコース

## (2) タレント発掘

### 1) トライアウト

本年度は、全国50カ所において、2,735名(前年度695名)の参加を得て実施した。  
内訳は男子1723名(63%)女子1012名(37%)となった。

### 2) 育成合宿の実施

トライアウトにより発掘したアスリートに対し、計28回に及ぶ育成合宿を福井県・美浜、埼玉県・戸田及び熊本県・菊池において実施した。

### 3) 海外育成プログラム

今年度は次の3大会にアスリートを派遣し、海外育成プログラムを実施した。

派遣大会名	派遣期間	派遣場所
ドイツ国際ジュニアレガッタ	5/3(日)～5/12(火)	ドイツ・ミュンヘン
ワールドカップⅢ戦	7/1(水)～7/14(火)	スイス・ルツェルン
第37回香港レガッタ	10/22(木)～10/27(火)	中国・香港

### 4) 発掘育成アスリート内訳

平成25年度より継続して本事業を行った結果、発掘アスリートレベル並びに人数は以下の通りとなった。

認定レベル	人数	認定レベル	人数
メダルポテンシャルアスリート	2名	タレント発掘育成選手B	4名
タレント発掘育成選手A	6名	タレント発掘育成選手C	42名

## 3. ボートの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会の開催に関する事業

本年度は、全日本選手権大会及び各種競漕会を以下のとおり開催した。

大会名	開催期日	開催地・会場
第8回全日本マスターズレガッタ	5/16(土)～5/17(日)	島根県「さくらおろち湖ボートコース」
第37回全日本軽量級選手権大会	5/22(金)～5/24(日)	埼玉県「戸田ボートコース」

JOC ジュニアオリンピックカップ 第 13 回全日本ジュニア選手権大会	6/12 (金) ~ 6/14 (日)	熊本県「菊池市斑蛇口湖ボート場」
第 65 回全日本社会人選手権大会	7/4 (土) ~ 7/5 (日)	宮城県「宮城県長沼ボート場」
第 63 回全日本高等学校選手権競漕大会	7/31 (金) ~ 8/3 (月)	兵庫県「円山川城崎漕艇場」
第 42 回全日本大学選手権大会	8/20 (木) ~ 8/23 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 55 回オックスフォード盾レガッタ	8/22 (土) ~ 8/23 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 93 回全日本選手権大会	9/10 (木) ~ 9/13 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 70 回国民体育大会ボート競技 (わかやま国体)	9/27 (日) ~ 9/30 (水)	滋賀県「琵琶湖漕艇場」
第 56 回全日本新人選手権大会	10/16 (金) ~ 10/18 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 26 回全国高等学校選抜大会	27/3/19 (土) ~ 3/21 (月)	静岡県「浜松市天竜ボート場」

#### 4. 日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会に派遣することに関する事業

##### (1) 国際競漕大会派遣事業

本年度は、以下の国際競漕大会に日本代表クルー・役員を選定して派遣した。

派遣大会名	開催期日	開催国・会場地
ワールドカップ第 2 戦	6/18 (木) ~ 6/21 (日)	イタリア・バレーゼ
ワールドカップ第 3 戦	7/11 (土) ~ 7/13 (月)	スイス・ルツェルン
ユニバーシアード	6/28 (日) ~ 7/5 (日)	韓国・光州
アジアジュニア	6/30 (火) ~ 7/8 (水)	中国・武漢
U23 世界選手権	7/12 (日) ~ 7/28 (火)	ブルガリア・ソフィア
世界ジュニア	7/30 (木) ~ 8/12 (水)	ブラジル・リオデジャネイロ
世界選手権	8/20 (木) ~ 9/8 (火)	フランス・エギュベレット

##### (2) 国際審判員派遣事業

平成 27 年度は、以下の国際競漕大会へ国際審判員を派遣した。

##### ■ F I S A

派遣大会名	開催期日	開催国・会場地	審判員 (所属協会)
U23 世界選手権	7/22 (水) ~ 26 (日)	ブルガリア・ソフィア	隈元幸治 (神奈川)
世界マスターズレガッタ	9/10 (日) ~ 13 (水)	ベルギー・ハゼウインケル	栗山俊久 (東京)

##### ■ A R F

派遣大会名	開催期日	開催国・会場地	審判員 (所属協会)
アジアカップ I	3/10 (火) ~ 14 (土)	シンガポール	塚田秀樹 (京都)
アジアインドア選手権	4/25 (土) ~ 26 (日)	タイ・パタヤ	松田雅彦 (神奈川)
アジアジュニア選手権	7/4 (土) ~ 7 (火)	中国・武漢	中島大祐 (東京)
アジア選手権	9/22 (火) ~ 27 (日)	中国・北京	田畑義彦 (愛知)

(3) 国際関係事業

アジア及び世界のボート界における日本のステータスと国際競技力を高めるための事業を行う。

- 1) 国際連盟の事業方針、競技規則、大会開催計画、各国の動向など、最新情報を把握するため、本年度は、下記 FISA、ARF 総会等へ担当役員他を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場地
ARF ジョイント・コミッテイ	7/6 (土) ~7 (日)	中国・武漢
世界ボート連盟 (FISA) 通常総会	9/7 (月)	フランス・エギュベレット
アジアボート連盟 (ARF) 総会	9/27 (土)	中国・北京

2) 国際大会誘致

以下の国際大会の日本誘致をめざし、以下の活動を実施した。

- ① 2016 年アジアジュニア選手権：岐阜県川辺町・飛騨川コース (2015 年 ARF 総会で事情により断念。)
- ② 2019 年世界ジュニア選手権：東京・海の森水上競技場 (FISA より開催を要請されている)

3) 日韓交流事業

日本と韓国とのボートを通じた交流を促進する為、隔年ごとにお互いの選手団を招待し合っている。平成 27 年度は、4/27 (月) ~29 (水)、韓国・忠州で行われた「第 4 回忠州湖カップ」に、選手団計 6 名 (男子選手 2 名、女子選手 2 名、役員 2 名) を派遣した。

4) FISA 及び ARF の役員実績

- ・ FISA 千田隆夫 (審判委員・継続) 日浦幹夫 (スポーツ医学委員・継続)  
細淵雅邦 (大会促進委員・継続)
- ・ ARF 千田隆夫 (審判委員・継続) 岡本 悟 (バラ委員・継続) 叶谷彰宏 (競技委員・継続)  
加藤直美 (広報プロモーション委員・継続) 日浦幹夫 (スポーツ医学委員長・新任)  
田畑義彦 (マスターズ委員・新任)

5. ボート競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定に関する事業

本年度は、以下の事業を実施した。

(1) コース認定

コース名	所在地	認定検査日	コース概要
天竜ボートコース	静岡県・浜松市	3/17 (火)	B 級・2,000m
久々子湖ボートコース	福井県・美浜町	4/25 (土)	B 級・1,500m
小見川ボートコース	千葉県・香取市	6/28 (日)	B 級・1,000m
桂湖ボートコース	富山県・南砺市	7/20 (日)	B 級・2,000m
田瀬湖ボートコース	岩手県・花巻市	8/8 (土)	B 級・2,000m
津幡漕艇競技場	石川県・津幡町	9/19 (土)	B 級・1,000m
潮来ボートコース	茨城県・潮来市	10/11 (日)	B 級・1,000m
御所湖ボートコース	岩手県・盛岡市	10/24 (土)	C 級・2,000m
美山漕艇場	和歌山県・日高川町	2/6 (土)	C 級・1,000m
加古川ボートコース	兵庫県・加古川市	3/6 (日)	B 級・1,000m

(2) 競技用具の審査と検定に関すること

1) 規格艇の審査と登録

本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査及び原簿登録に係わる業務を行った。

2) 規格艇の計測

第70回国民体育大会、第63回全国高等学校選手権及び第26回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

3) 情報収集と提供

競漕艇、レクリエーション艇、オール等の調査・研究・開発に資するため、これら分野の専門的情報を収集し、関係者へ提供した。

6. ボート競技の研究・指導・審判員及び指導者の育成、ボートに関する広報に関する事業

本年度は、以下の事業を実施した。

(1) 調査・研究関係事業

(財) ミズノスポーツ振興財団の助成金交付を受け、下記の調査・研究事業を継続実施した。

1) 漕力測定装置（今仁マシーン）を用いた漕手の漕力、漕型の関係の調査と研究

2) 艇上の三次元加速度センサー測定装置を用いた艇の動きに関する調査、研究

(2) 審判事業及び審判員養成事業

1) 本年度も本会主催・主管大会へ審判長、副審判長、審判員を派遣し、大会審判業務を行った。

2) 2020年東京オリンピック開催に向けて、各種国際大会の招致推進に合わせて、当協会の競漕規則について、見直しと改定を行った。

3) 審判員の養成と技量向上を図るため、以下の審判員資格試験と認定試験及び審判員研修会と講習会を開催した。

研修会名称	開催日程・場所
第86回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	5/22(金)～5/24(日) 埼玉県戸田市「戸田ボートコース」
公認審判員セミナー	6/12(金)～6/14(日) 熊本県菊池市「班蛇口湖ボート場」
公認審判員セミナー	7/4(土)～7/5(日) 宮城県登米市「宮城県長沼ボート場」
公認審判員セミナー	8/20(木)～8/23(日) 埼玉県戸田市「戸田ボートコース」
第87回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10/16(金)～10/18(日) 埼玉県戸田市「戸田ボートコース」
審判員講習会(C級審判員認定試験)	都道府県協会の要請により随時開催

(3) 公認スポーツ指導者養成事業



(公財) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業による公認スポーツ指導者養成講習会について、本年度は以下の日程で講習会を開催した。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ養成講習会	10/30 (金) ~ 11/3 (火)	埼玉県・戸田市
公認指導者養成講習会	前期: 11/28 (土) ~ 11/29 (日) 後期: 12/5 (土) ~ 12/6 (日)	大阪府ボート協会
資格更新義務研修	4/17 (金)	中日本レガッタ
	5/4 (火)	朝日レガッタ
	11/28 (土) ~ 11/29 (日)	高体連東地区
	11/21 (土) ~ 11/22 (日)	高体連中地区
	11/21 (土) ~ 11/22 (日)	高体連西地区

(4) 日本ボート協会認定ボートインストラクター養成事業

本会認定ボートインストラクターについては、本年度は以下の日程で講習会を開催した。

事業名	開催日程	開催場所	主管団体
義務研修会	3/13 (日)	静岡県・佐鳴湖漕艇場	静岡県ボート協会

(5) 日本ボート協会認定セーフティアドバイザー研修事業

本会認定セーフティアドバイザー研修については、本年度は以下の日程で研修会を開催した。

なお、本研修は各水域や団体における安全責任者も受講の対象とした。

事業名	開催日程	開催場所
研修会	1/17 (日)	東京都・豊島区
	2/28 (日)	愛媛県・今治市

(6) ボートに関する広報事業

本年度は、以下の事業を実施した。

1) 協会広報誌の発行

「ローイング」を隔月定期発行を行い、本年度は年6回発行した。

2) 本会公式ホームページ

ホームページの速報化と掲載情報量のアップを図るとともに、本会の事業・広報活動に一層役立つよう内容充実に努めた。また、次年度の改定に向けた検討を行った。

3) 報道機関、マスコミへの対応・協力

・東京運動記者クラブをはじめ報道機関、出版業界との関係を密にし、報道を通じて本会の活動の広報に努めた。

・また、ニュースリリース等をタイムリーに発行し、報道機関へニュースソース提供を積極的に行った。

7. メディカルサポート、ドーピング検査事業

本年度は、以下の事業を実施した。

- (1) 戸田ボートコース開催の全日本選手権大会（全日本、全日本軽量級、全日本大学及び全日本新人）へ医師、看護師を派遣し、救急医事業務を行った。
  - (2) 全日本選手権大会（全日本、全日本軽量級、全日本大学、全日本新人）において、大会内ドーピング検査を日本アンチ・ドーピング機構（JADA）の委託事業として実施した。
  - (3) JADA と連携して、競技団体・選手を対象にアンチ・ドーピングに関する普及・啓発講習会を開催した。
  - (4) 国内・海外強化合宿、海外大会へ医師、トレーナーを帯同させ、選手のコンディショニング維持・改善及び指導等を行った。
  - (5) トレーナー部会において、アスレチック・トレーナーを養成し、研修会を実施した。
  - (6) 栄養・コンディショニングの相談窓口を設置し、相談業務を実施した。
  - (7) メンタルサポート窓口を設置し、精神・心理面の問題に対応した。
  - (8) 女性アスリートの体調管理の問題を取り上げ、代表候補選手及び大会参加一般選手に対して講習会を実施した。
  - (9) 国内開催日程に合わせて、医科学講演会を開催し、選手・コーチの知識の充実に努めた。
8. スポーツマンシップの育成と競技者資格の決定に関する事業
- 本年度は、以下の事業を行った。
- (1) 競技団体及び競技者資格の決定  
競技者規定に基づき、平成 27 年度の競技団体及び競技者の資格決定を行った。
  - (2) 競技団体、競技者の登録  
本年度は、競技者資格に定める選手として、533 団体（前年 538 団体）、9,157 名（前年 9,295 名）の登録を行った。内訳は、大学 110 団体（前年 118 団体）3,012 名（前年 2,942 名）、高校 219 団体（前年 219 団体）4,292 名（前年 4,329 名）、中学 27 団体（前年 28 団体）483 名（前年 610 名）、一般 177 団体（前年 173 団体）1,370 名（前年 1,414 名）。全体では 5 団体減、選手数は 138 減となった。
  - (3) 審判員管理システムの構築  
審判業務の効率化を図るため、審判員の資格把握、審判技術の向上、従事履歴等の管理システムを構築し、運用を開始した。
9. その他の目的を達成するため必要な事業
- (1) 協会財政基盤の強化  
日本オリンピック委員会（JOC）、日本スポーツ振興センター（JSC）、その他の団体と個人に対して、当協会の実施事業の目的及び重要性について理解を得るための活動を行い、可能な限りの助成と援助を依頼した。本年もさらなる支援をお願いするとともに、協会の諸事業、募金活動等を通じて自主財源の確保に努めるなど、積極的に財政基盤の強化に取り組んだ。
  - (2) ボート人口増大運動の継続  
都道府県ボート協会、全国ボート場所在市町村協議会、その他の関連団体等との連携を通じて、全国のボート関係団体・個人との交流を推進し、ボート人口増大、魅力あるボートライフの創出、イベント企画等を行い、長期的なボート人口増大活動を展開した。また、各地でボート競

技の振興を図る為、国内各地の以下のボート競技会開催を後援した。

大会名	開催月	大会名	開催月
第 60 回中日本レガッタ	4 月	第 43 回中部選手権競漕大会	8 月
第 62 回九州朝日レガッタ	5 月	第 24 回全国市町村交流レガッタ	9 月
第 68 回朝日レガッタ	5 月	名古屋レガッタ 2015	10
第 24 回河北レガッタ	7 月	第 59 回相模湖レガッタ	10 月
第 32 回松江市民レガッタ	7 月	第 11 回全国中学校選抜ボート大会	3 月

(3) 公益法人に関する業務の推進

公益法人のもとで協会運営を行うため、必要な各種規定・規則類を必要に応じ改定整備するとともに、その他の関連業務を継続して実施した。

(4) 新たな公益事業、収益事業の創出

公益法人としての事業継続・発展となる新たな事業の創出について調査・検討を行った。

以上

## 平成27年度事業報告 附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年3月31日

公益社団法人 日本ボート協会